



グローバル COE 物質科学イノベーション講演会

群馬大学生体調節研究所よりの崎尚先生が来学される機会に、以下の通り講演会を企画しました。

崎先生は、シグナル伝達におけるチロシンホスファターゼ研究分野で、多くの国際的な業績を上げておられます。先生の最近の研究内容について、興味深いお話が伺えるものと思いますので、多数ご参加ください。

演 題：『細胞間シグナル CD47-SIRPα 系の機能と病態』

講 師：崎 尚 教授

群馬大学 生体調節研究所

日 時：2010 年 6 月 22 日（火）15：00～

場 所：理学部 6 号館 2 階 04-2 室〈多目的演習室〉

共 催：日本化学会北海道支部、日本生化学会北海道支部、
生命分子化学セミナー

要 旨：

膜結合型リガンド-レセプター系は、神経系や免疫系など細胞同士の直接のコンタクトにより細胞間コミュニケーションを行う場でよく利用されている。私共は、膜結合型分子でありイムノグロブリンスーパーファミリーに属する SIRPα (SHPS-1、CD172a) とそのリガンドである膜結合型分子 CD47 が細胞間シグナル系を構成し様々な生体機能を制御していることを見出している (Matozaki, T. et al., *Trends Cell Biol.*, 2009)。SIRPα、CD47 は共に中枢神経系に豊富に発現する。私共は最近、CD47-SIRPα 系が脳におけるストレス応答を制御する細胞間シグナル系であることを明らかにしつつある。一方、血液・免疫系では、SIRPα は樹状細胞あるいはマクロファージなどの骨髄系細胞に高度に発現する。最近の検討から、CD47-SIRPα 系は脾臓やリンパ節などにおける樹状細胞のホメオスタシスを制御すること、またマウスでの自己免疫疾患モデルの発症に重要な制御的役割を果たしていることを見出している。本講演では、これらの成果を紹介しご討議いただきたいと思います。

連絡先：理学院化学部門 坂口和靖（内線：2698）